

仙台ひまわり訪問看護ステーション 渡部 峯子

功 績	訪問看護ステーションの所長として、地域のコロナ陽性者に対して看護師として何かできないかと模索した結果、仙台市のコロナ陽性の自宅療養者への健康観察事業に率先して参加、感染者急増の時期に訪問当番を請負い、地域に貢献。更に新たな収入増加につなげた功績。
推 薦 者	大友悠平（在宅部長）
推 薦 理 由	新型コロナウイルス陽性の自宅療養者について訪問看護ステーションとしての働きかけを積極的に行うことが出来た事例であります。陽性者対応は一筋縄に実行することは難しい内容です。これまでの実績が後押しとなり実際に自ら動き姿を見せることで新事業に挑戦することが出来、更なる収入にもつながった本事例は、何より理念に基づいた行動からつながった事例で理事長賞に値すると考え、理事長賞候補に推薦いたします。

内 容

渡部はひまわり訪問看護ステーションの事業所立ち上げメンバーであり、勤続25年以上、当事業所の運営に長きにわたり貢献してきた。特に東日本大震災後は地域の在宅医療を率先して担い、自身も被災した身ながらも訪問を継続し大きく盛り上げてきた存在です。ひまわり訪問看護ステーションの複数拠点を統括し医療の質の向上に取り組んできましたが、近年は仙台事業所の安定化の為、石巻の自宅から仙台へ通勤、所長業務に従事しておりました。

昨今の新型コロナウイルス感染症の流行から、医療体制に大きく変化があった近年、R3年に宮城県では新型コロナウイルス感染症の第4波・5波の感染が流行、その際は訪問看護ステーションから積極的に陽性者対応という自体は発生することはなかったが、感染拡大からコロナ陽性者病床やホテル療養のベッドが圧迫、次はいよいよ在宅での訪問体制が必要になると感じており、ひまわり全体で陽性者への訪問対応を検討していきました。しかし、一般の看護職員では対応に不安を感じており、賛同を得ることは難しい状況でした。オミクロン株が世界的にも流行したこともあり、自治体の動きを積極的に情報収集をしていきました。その中で、仙台市が第6波の対策としてコロナ陽性者の在宅療養者に対して訪問看護ステーションの看護師による健康観察事業を企画している事を耳にしました。すぐに手上げを行い事業へ参加、概要を行政担当者と検討し、出動する看護職員を限定して流行期間の毎週土曜日に陽性者対応を請負う事となりました。

最終的に仙台ではひまわりを含む4つの訪問看護ステーションでコロナ陽性の自宅療養者に訪問を実施いたしました。結果新たな収入にもつながる事となりました。本事例は、ひまわり理念である”地域で生活する方々がその人らしく生活できるように安心・信頼される看護を提供し、地域の皆様に貢献します”という理念に基づいて行動した結果、新たなことに挑戦することが出来た事例であります。